

○具体的な活動や体験を通して学ぶ生活科の教科特性や、低学年という発達段階、家庭環境の多様さを踏まえると、生活科の学習は、できるだけ学校で行うことが望ましいと考えます。

○学校での授業を想定した時数と、授業以外の場で行うことが考えられる学習活動の時数を小単元ごとに示しています。それらを足すと、[○+○]で示された単元の配当時数になります。

単元名、ページ数と目標 [配当時数]	学習活動(学校での授業を想定)	授業 時数	学校の授業以外の 場において行うこと が考えられる教材・ 学習活動	授業以 外の 時数	感染防止策を踏まえた手立て	指導順序を変更することが考え らるる、または次学年、次々学年 へ移すことが考えられる教材、 学習活動
いちねんせいになつたら	教科書p.4-17 [8] ※通常配当時数(8) ・初めての学校生活で、先生や友だちと関わりながら、施設や生活のしかた、登下校に慣れ、安心して楽しく生活できるようになる。	1			・両手を広げて当たらない距離を基本として活動できるよう習慣化させる。 ・遊びについては、場の共有(運動場、教室などを行うが、遊びの共有(接触があるような遊び)は避ける。	
	○じぶんでできるよ (p.8-9) ・学校に着いてから朝の準備のしかたがわかるとともに、朝の会では元気よくあいさつできるようになる。 ・幼児教育段階での生活のしかたと比較しながら、学校に着いた後の生活のしかたがわかる。	1			・両手を広げて当たらない距離をとる習慣を身につける。 ・手洗いや声のボリュームなど、スタートカリキュラムと関連付けて、学校再開当初に習慣化させる。	
	○みんなのできるよ (p.10-11) ・みんなと一緒に行動したり、同じようにきまりを守って行動したりできるようになる。 ・学校生活でのきまりについて、どのように行動すればよいか、考えようとする。	1			・机は動かさず、静かに食べる。食後は静かに読書やお絵かきなどをすることについて指導する。 ・「協力」は一緒に何かをすることではなく、一緒に決まりを守ることであり、といった視点をもって指導する。	
	○あそぼう まなぼう (p.12-13) ・幼稚園、保育所、こども園での遊びの経験を生かし、すすんで遊んだり学んだりしようとする。	2			・手をつないだり、体に触れたり、ボール遊びをしたりといったこと、あるいは同じものに触れることなどは基本的に避けるようにし、接触の可能性を極力低くしたい。 【接触しない遊び例】 ・かけこ ・縄跳び ・折り紙 ・ダンス ・ケンケンパー	
	○じゅぎょうを たのしく (p.14-15) ・学習の基本的な約束やきまりを考え、授業への期待感をもつ。 ・意欲的に学んだり、主体的に授業に参加したりできるようになる。	3			・距離のとり方や声の大きさなどは、授業だけでなく休み時間にもかかわることであるため、繰り返し確認する。また、これらのルールなどについてはこれまでの学習の振り返りとして子どもの発言から引き出したい。	
	○みの まわりの あんぜん (p.16-17) ・学校や通学路の安全について考え、すすんで安全な生活を心がけようとする。				・集団登下校については、前後の間隔をしっかりとることについても指導する。 ・安心、安全とは、事故や不審者などだけでなく手洗いなども含め、ウイルスに対する安全対策も同じように取り扱う。	
教科書p.18-33 [9+1] ※通常配当時数(10)	・学校を探検する活動を通して、たくさんの人・もの・こととの出会い、関わりを繰り返していく中で、学校を支えている施設や設備、人、友だちのことがわかり楽しく安心して遊びや生活ができるとともに、6年間の小学校での学びについて考え、見通しをもったり、希望をもったりして、学校での自分の生活を豊かに広げようとする。	1			・整列のしかたは、両手を広げて当たらない距離を基準にし、クラスやグループで回る場合もその基準に基づき活動させる。	
	○じぶんたちで たんけん しょう (p.22-23) ・自分たちで計画をたてて学校探検をし、学校にはいろいろな場所やものがあることや、いろいろな仕事をしている人がいることに気づき、自分なりに考えることができる。	2			・他学年との交流はなるべく避ける。	
	○こういを たんけんしょう (p.24-25) ・校舎の外の学校探検をして、学校にはいろいろな施設や設備があることに気づくことができる。	2			・安全の配慮から校舎外においても死角がない範囲での探検を行う。 ・気温に応じて水筒も持参させる。	

がっこうを たんけんしよう	<p>○がっこうにいるひとに あいにいこう (p.26-27)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校には、みんなで使うものがたくさんあることや、図書室や保健室などの施設そのものや施設・設備に携わっている人々があり、たくさんの方の支えによって学校生活が成り立っているということに気付くことができる。 	1			<ul style="list-style-type: none"> ・他学年との交流はなるべく避ける。 		
	<p>○みんなのつうがくろを あるいてみよう (p.28-29)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学路の様子や安全のために気をつけることやきまり、そしてその安全を守っている人々などについて考え、いろいろな人の支えによって学校生活が成り立っていることに気付くことができる。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の登下校で学んだことをいかに。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路の見守りボランティアなどは高齢者の方が多いため、インタビューをするときは十分に配慮する。 ・インタビューを行うときは、LINEやZOOMなどを活用する。 ・給食室を見学するときは事前に打ち合わせをして安全な範囲を確認し、ビニールテープなどを使って見学スペースをつくっておく。 		
	<p>○たんけんで見つけたことをはなそう (p.30-31)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの学校生活を支えている人々や見つけたもの、ことについて考え、楽しく安心して学校生活を送ることができる。 ・学校探検で見つけたこと、気付いたことを自分なりの方法でみんなに伝えることができる。 	2			<ul style="list-style-type: none"> ・発表や交流については、言葉だけでなく、ホワイトボードなどを使って絵による補助的な資料もつくらせて活用する。 ・全体の場での発表の時は、マイクを使い、大きな声で話さなくてよいような場の設定を行う。 		
	<p>○がっこうのひみつをもっとさがそう (p.32-33)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが繰り返し関わってきた学校のもの、人、ことへの思いが醸成され、「○○したい」「もっと○○したい」という思いをもつ。 ・子どもたちの思いを表現し、さらに体験と表現の相互作用で気付きの質を高めていく。 	—			<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や他教科等の学習、休み時間などでも、学校生活でこれから取り組みたいことへの意欲付けを図り、次の学習活動への課題を主体的にもてるようにする。 	※時数設定なし。適宜取り扱う。取実態に合わせて判断し、次の学習に進む。	
きれいな はなを さかせよう	<p>教科書p.34-47 [13+1] ※通常配当時数(14)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で決めた植物を種から育てることで、植物への思いをもって世話をすることができるようにする。 ・植物の変化や成長の様子に気付くとともに、生命の不思議さにふれ、植物も自分たちと同じように命をもって成長していることに気付き、親しみをもち大切にしようとする。 	<p>○そだてる はなを きめよう (p.36-37)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学前の栽培経験や学校探検などで植物と関わった経験をもとに考え、知っている花や好きな花の名前を発表することができる。 ・花をきれいに咲かせたいという思いをもって、育てたい花を決めることができる。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携を図り、幼児期の栽培体験や家庭での栽培などから育ててみたい花を家の人と話し合う。 ・話し合った内容は、付箋や簡単なミニ学習カードにまとめる。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・時期に合わせていくつかの種を子どもに提示する。 	
	<p>○たねをまこう (p.38)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土づくりなどの準備をして、思いを込めて種をまくことができるとともに、自分なりに考えて、その様子を絵や文で表現することができる。 	2			<ul style="list-style-type: none"> ・種まきの時は半円形で二重になったり、植木鉢をあらかじめ置くなど場所の設定をするなどして密集しないようにする。 ・種まき後は、植木鉢と植木鉢の間を十分に開けて置き、観察をする際に適切な距離を保ちながら観察できるようにする。 		
	<p>○せわをしよう (p.39)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世話をしながら発芽を待つことで花への思いを深めるとともに、発芽のしかたや子葉の形などに気付き、喜びとともに気付いたことを伝え合うことができる。 	4			<ul style="list-style-type: none"> ・小さなホワイトボードに工夫していることなどを書かせ、教室に掲示しておくことで、互いの工夫を共有することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・育てる花に応じて他の時期への移行が可能。 <p>例 6月 アサガオ けいとう コスモス サルビア マリーゴールド 百日草 ひまわり ベコニア 7月 ラベンダー コスモス ハボタン ひまわり ルピナス 8月 コスモス カンパニュラ カーネーション ストック なでしこ パンジー 9月 アスター ベゴニア 花菱草 カーネーション スイートピー 金魚草 カスミソウ 10月 アスター ラベンダー ペチュニア ベにばな 金魚草 花菱草 カーネーション スイートピー 桔梗</p>	
	<p>○せわをつづけよう (p.40-41)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水やりや観察を通して、成長や変化に気付くことができる。成長に応じた世話のしかたがあることを知り、観察をもとに考え、愛着をもって必要な世話をすることができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・相談や友だちとの交流の際は、距離と声の大きさなどについて気を付ける。 		
	<p>○さいた はなを たのしもう (p.42-43)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が世話をしてきた植物の花が咲いた喜びを味わい、花を観察して特徴に気付いたり、植物に対して親しみを深め、花を使って思い出に残る作品をつくらせることができる。 	2			<ul style="list-style-type: none"> ・たたき染めや押し花などは、図工の学習と関連付けて行うことで、双方の学びを深めるとともに時数の削減、効率化につなげる。 		

たい		<p>○たねを とろう (p.44)</p> <ul style="list-style-type: none"> 種の付き方や実の様子を観察した後、一粒の種からたくさんの種ができる不思議さや生命のつながりに気付くことができる。 土の中では根が伸びて、植物の成長を支えていたことに気付くことができる。 	1			<ul style="list-style-type: none"> 種の採取にあたっては、手洗いについて改めて確認する。 	キンセンカ	
		<p>○いままでを ふりかえろう (p.45)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「発見カード」の記述をもとに、これまでの世話や成長を振り返ることができる。 育ててきた植物の種やつるなどで、思い出に残る作品をつくることのできることに、自身の成長に気付く、次の栽培への見直しをもつ。 	2			<ul style="list-style-type: none"> 「秋からも育ててみよう」と関連付けてまとめて学習に取り組むことでより相手意識をもつことができるとともに時数の削減を行う。 		
		<p>○あきからもそだててみよう (p.46)</p> <ul style="list-style-type: none"> 秋まきの植物や球根に関心をもち、さらに育てていきたいという願いをもち、育てることができる。 	1					
		<p>○みのまわりのくさばなをさがしにでかけよう (p.47)</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習体験を生かして身の回りの草花に関心をもち、積極的に関わったり味わったりする。 	—	<ul style="list-style-type: none"> 校外学習や放課後の遊びのなかで草花の観察を行う。 			<ul style="list-style-type: none"> 放課後に観察する可能性があることを保護者に伝え、可能であれば同行してもらったり、手洗いの徹底の協力を依頼する。 	※時数設定なし。適宜取り扱う。
きせつとあそぼうーはるからなつー	<p>教科書p.48-65 [12+2] ※通常配当時数(14)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間を通して身近な自然にふれながら、身体全体を使って遊んだり、自然を使って工夫して遊んだりする。 活動を通して自然の不思議さ、季節の変化に気付く、遊びや生活を楽しむとする。 <p>【季節のフィールドワークは、地域や学校の実情によって、実施できる場所、回数などに差が出やすい。</p>	<p>○はるや なつを みつけよう (p.50-51)</p> <ul style="list-style-type: none"> 身のまわりの自然の様子から、校内(校庭)の自然環境に興味・関心をもち、春から初夏にかけての自然の変化に気付くことができる。 	3			<ul style="list-style-type: none"> 夏みつけをする範囲を設定し、その範囲内で基本的に1人での活動とする。「友だちとはどのくらい離れていたらいいかな?」と声をかけ、距離をとりながら夏みつけをするよう支援する。 		
		<p>○はるや なつを かんじよう (p.52-53)</p> <ul style="list-style-type: none"> 諸感覚を使って身近な自然を観察・体験したり、見つけたものや気付いたことを生かして遊んだりする。 活動を通して、春から初夏にかけての自然の楽しさや不思議さに気付くことができる。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間、放課後を活用して、学んだ安全な遊びを行う。 	1	<ul style="list-style-type: none"> 遊びを中心に設定すると接触が増えるため、観察をメインに置き、遊びについては接触しないような遊びを紹介したり、一人で遊べる遊びを伝えたりする。 		
		<p>○あそんだことを ふりかえろう (p.56-57)</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験活動を通して得た気付きについて絵や文、言葉などで表現し、友だちと伝え合うことを通して、次の季節への活動につなげようとする。 	2				<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループでの活動においても両手を上げた距離を意識させる。 	
		<p>○あめのひを たのしもう (p.58-59)</p> <ul style="list-style-type: none"> 雨の校庭や公園と関わる活動を通して気付いたことを、ほかの天気の様子と比べながら絵や文、言葉を通して表現することができる。 友だちと伝え合うことで、雨の日の遊びの楽しさや不思議さに気付くことができる。 	1				<ul style="list-style-type: none"> 距離については「傘がぶつからない距離」といった表現を使うとよい。 	
		<p>○なつをもっと たのしもう (p.60-61)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水遊びや泥遊びなど季節の自然の特徴を生かした遊びを通して夏を味わい、遊びや遊びに使うものを工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付く、友だちと遊びを楽しむことができる。 	3				<ul style="list-style-type: none"> 泥だんごづくりなど、一人でできて、なおかつ友だちと比べることができそうな遊びが有効な手立てである。 	
		<p>○なつやすみが やってくる (p.64-65)</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生になって初めての夏休みを充実したものにするために、してみたいことをすすんで考え、夏休みを楽しみにすることができる。 	1	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みのチャレンジや頑張りカードなどは家庭と連携して学習し、2学期の初めにクラスで共有する。 	1	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みの短縮も予想されるため、「夏休みがんばりカード」のような、夏休みの1行日記とともに指導することで、具体的な計画性を持たせる。 		
		<p>教科書p.66-73 [6] ※通常配当時数(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な生き物を探したり観察したりしながら、その特徴に気付くことができる。 生き物に親しみを持ち、 	<p>○生きものに あいこいこう (p.68-69)</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な生き物に関心をもち、生き物探しをする。 生き物それぞれのすみかや特徴に関心をもち、どの場所にどのような生き物がいるか気付くことができる。 	2			<ul style="list-style-type: none"> 生き物がいるような場所を子どもたちに予想させ、いくつかの場所を決める。少人数で最終活動を行う。 	

と なかよく なろう	<p>生き物に親しみをもつ、大切にしようとする。</p>	<p>○生きもの と ふれあおう (p.70-71) ・身近にいる生き物や、学校で飼育している生き物とのふれあいを通して、生き物の特徴に気付くことができる。</p>	2			<p>・虫を飼育する場合は、ペットボトルなどを活用し、一人ひとずつ観察できるようにする。</p>	<p>・飼育する生き物に応じて配列の変更可能。 ヤゴ・バッタ・ダンゴムシ・チョウなど</p>
		<p>○生きもの の こと を つたえよう (p.72-73) ・これまでふれあってきた生き物の様子を振り返ることを通して、自分が紹介したい生き物の特徴を決め、うまく伝える方法を考え、伝え合うことができる。 ・生き物に親しみを持ち、自分なりに生き物との関わりを継続しようとする。</p>	2			<p>・ワールドカフェ方式で発表会をする場合は、フラフープなどを使い、子ども間の距離をとるよう設定する。 ・全体で発表する場合はマイクを活用する。</p>	
きせつと あそぼうーあきー	<p>教科書p.74-91 [11+3] ※通常配当時数(14)</p> <p>・身近な秋の自然の中で遊んだり、身体全体を使って自然とふれあったりする活動を通して、自然の材料を使った遊びを考えたり遊び方を工夫したりすることなどから季節の変化や特徴、自然の不思議さに気付き、遊びや自身の生活を楽しむことができる。</p>	<p>○あきを みつけよう (p.76-77) ・身近な自然に興味をもち、春や夏に行った校庭(公園)で諸感覚を使った自然の観察や体験を通して自然に親しみ、秋の自然の様子に気付くことができる。</p>	1			<p>・夏の観察で活用したワークシートなどで振り返り、密集や密着を避けることを再確認する。 ・交流には模造紙や付箋などを使い、掲示したものを個別に見に行ったり、コーナーを設置したりしてローテーションでまわったりするなど、少人数で活動するようにする。</p>	
		<p>○あきを かんじよう (p.78-79) ・身近な自然とふれあい、諸感覚を使って春や夏と比べ、変わったところや変わらないところなどを観察しながら自然に親しみ、秋の自然の特徴に気付くことができる。</p>	2				
		<p>○みつけた あきを つたえあおう (p.82) ・体験活動を通して得た気付きについてカードや言葉を通して表現し、友だちと伝え合うことで、春や夏の様子と比べたり、次の活動につなげようとしてたりすることができる。</p>	1			<p>・制作活動への見通しをもたせる。 ・教科横断的に取り組むことで学びを深めるとともに時数削減と効率化を図る。</p>	
		<p>○あきの もの で つくって あそぼう (p.84-85) ・集めた木の葉や実などを利用して、すすんで遊びを考えて遊んだり、遊びに使うものを工夫してつくったりすることができる。</p>	2	<p>・家庭との連携を図り、家の人と話し合いながら、つくりたいものを考えたり、自然の材料を集めたりする。</p>	2	<p>・話し合いの時は班机にせず体の向きだけをかけ、距離を保つ。</p>	
		<p>○みんなで あそぼう (p.86-87) ・遊びを工夫したり、みんながつくった遊びを体験したりすることを通して、秋の自然への気付きをより深めたり、興味・関心を高めたりすることができる。 ・自然にあるものの面白さや不思議さに気付き、活動を楽しむことができる。</p>	2			<p>・空き教室や体育館などを使用し、一か所に密集しないよう配慮する。</p>	
		<p>○あきを ふりかえろう (p.88) ・自然の中の諸感覚を使った体験や、自然を使った遊びを思い出し、春・夏との違いや自然の面白さ、不思議さに気付き、これからの生活に生かそうとしてたり、次の活動へつなげようとしてたりする。</p>	1	<p>・家庭との連携を図り、家の人と話し合いながら振り返りカードをかく。</p>	1	<p>・話し合いの時は班机にせず体の向きだけをかけ、距離を保つ。</p>	
		<p>○しょうたいしよう (p.90) ・「みんなで あそぼう」(教科書上p.86-87)での体験をもとに、招待される人の立場に立ってルールを考えたり、遊びを工夫したり、遊びに使うものをさらにつくったりする。招待した人と楽しく交流する。</p>	2			<p>・招待する対象、人数、場所、時間などについて教員が事前に調整しておく。 【別案】おもちゃや作品を展示し、自由に遊んでもらい、感想を書いてもらう。 ・書いてもらった感想を通して交流したり、活動を振り返ったりする。</p>	
		<p>○あきの 生かす たのしもう (p.91) ・既習体験を生かして身の回りの自然(秋)に関心を持ち、積極的に関わったり味わったりする。</p>	—	<p>・校外学習や放課後の遊び、家庭生活などで、秋のよさや季節の移り変わりを味わう。</p>			<p>・放課後に観察する可能性があることを保護者に伝え、可能であれば同行や、手洗いの徹底の協力を依頼する。</p>

じぶんで できるよ	教科書p.92-99 [6+2] ※通常配当時数(8) ・家庭における自分や家族の生活について考えることで、家庭での生活は互いに助け合うことで成立していることに気づき、自分のできることを実行したり、規則正しく健康に気をつけて生活したりしようとする。	○1日のことを おもい出そう (p.94-95) ・家族及び自分が1日どのように家庭生活を送っているのか関心をもち、家族に尋ねたり、調べたりする活動を通して、家庭において自分ができることについて考え、自分の生活と家族の生活との関わりについて考えることができる。	2	・家庭でインタビューを行い、授業で共有する。	1	・インタビューの対象は保護者、同居人などに限定する。		
		○できることをしてみよう (p.96-97) ・家庭生活において行っていることについて、考えたり、伝え合ったりする活動を通して、新たに家庭で行いたいことを見つけ、家族との関わり方を変えようとして、自分の役割を新たに増やそうとしたりすることができる。	2				・話し合いの時は班机にせず、体の方法する。 ・コーナーを設置し、実演するときはフラフープやテープで線を引くなどして密にならないようにする。	
		○これからも つづけよう (p.98-99) ・それぞれの家庭でできることを実行して、気付いたことや感じたことを伝え合い交流する活動を通して、家族の思いや願い、家庭生活は互いを支え合うことで成立していることなどを実感し、今後も自分の役割を自覚してすすんで取り組もうとしたり、生活のリズムや健康に気をつけた暮らしを継続していこうとしたりすることができる。	2	・家庭との連携を図り、家の人と話し合っ、これからも続けたいことや、自分できそうなことを話し合う。	1	・報告については掲示スペースや朝の会、帰りの会などを活用し、発表が長時間にならないよう配慮する。		
きせつと あそぼうーふゆー	教科書p.100-113 [8+2] ※通常配当時数(10) ・身近な冬の自然を観察したり、遊びや遊びに使うものをつくり出すことを通して、自然の様子や季節の変化、自然の不思議さや遊びの面白さに気づくとともに、楽しみながら遊んだり、遊びをつくったり、自分の生活に取り入れることができる。	○むかしから つたわる あそびを たのしもう (p.100) ・いろいろな昔遊びがあること、地域ごとに冬ならではの行事や文化があることを知り、自分がやってみたい遊びや自分の地域の行事や文化に関して知りたいことを考える。また、実際に取り組んで感じたことや気付いたことを自分の生活に取り入れようとする事ができる。	—	・地域や家庭に協力を依頼し、昔遊びと一緒に楽しむなどの交流をする。		・放課後に観察する可能性があることを保護者に伝え、冬休み期間を活用するなど協力を依頼する。	※時数設定なし。適宜取り扱う。	
		○ふゆの 生かすを たのしもう (p.101) ・春、夏と比較するなどして身の回りの自然(冬)に関心をもち、積極的に関わったり味わったりする。	—	・放課後の遊び、家庭生活などで、冬のおよや季節の移り変わりを味わう		・放課後に観察する可能性があることを保護者に伝え、冬休み期間を活用するなど協力を依頼する。	※時数設定なし。適宜取り扱う。	
		○ふゆを みつけよう (p.104-105) ・身近な冬の自然を観察したり遊んだりすることを通して、これまでの季節と比べ、違いなどを見つけながら、自然の不思議さや冬の訪れなどに気づき、それを生かして遊ぶことができる。	2	・休み時間や登下校の時間、放課後の遊びも活用し、冬みつけを行う。	2	・休み時間にも積極的に声かけを行い、一緒に冬を探す。 ・放課後にも冬みつけをすることを保護者に伝え、可能な限り同行してもらうことや安全に観察できるように依頼する。		
		○ふゆを かんじよう (p.106-107) ・諸感覚を使って身近な冬の自然を観察・体験したり、見つけたものや気付いたことを生かして遊んだりする活動を通して、冬の自然の特徴、楽しさや不思議さに気づくことができる。	2			・夏や秋の観察で活用したワークシートなどで振り返り、密集や密着を避けることを再確認する。 ・交流には模造紙や付箋などを使い、掲示したものを個別で見に行ったり、コーナーを設置したりしてローテーションでまわるなど、少人数で活動する。		
		○ふゆを 生かして あそぼう (p.108-109) ・自分が見つけた冬を使って、遊びや遊びに使うものを工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さを感じたり気付いたりしながら遊びを楽しむことができる。	2			・これまでの学習で三密の環境にならないような習慣が身についているか、再度確認する。		
		○きせつ の ちがいを ふりかえろう (p.110-111) ・これまでの季節の遊びを振り返り、自然の様子や自分たちの生活との関わりについて考え、四季の変化や特徴、以前よりもみんなと楽しく遊ぶことができる自分自身の成長などに気づき、それらを生かして生活を楽しくしようとする事ができる。	1	・これまで季節の違いを生かして楽しく遊んできたことや、遊びが増えてきたことを振り返って、自分なりの方法で表現する準備をする。	1	・模造紙や付箋などを活用する。		
		教科書p.114-123 [8+2] ※通常配当時数(10) ・1年間の自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分は多くの人々に支えられていることに気づくことができる。	○1年かんと ふりかえろう (p.116-117) ・入学してからこれまでの様々な思い出に関心をもち、写真を見たり、友だちと話したりしながら、1年間のできごとや自分や友だちの成長を振り返ったり、成長を支えてくれた人について考えたりすることができる。	2			・インタビューのしかたを学習するとき、距離や声の大きさなどを確認する。	

もうすぐ 2年生	とや田分じじるよつに なつたことがあることなど に気付くとともに、自分の 生活やこれまでの成長を 支えてくれた人々への感謝 の気持ちをもち、これ からの成長への願いと期 待をもって生活しようとす ることができる。	○じぶんのせいちようを みんなにつたえよう (p.118-119) ・1年生になって自分ができるようになったことや変わったことなどについて考え、自分の成長や役割が増えたことに気付き、それを自分なりにまとめて表現することができるとともに、支えてくれた人々へ感謝の気持ちをもつことができる。	2	・自分の成長などについての調べ学習は家庭と連携して行う。	1	・友だちの成長みつけにはできるだけ付箋などを活用し、接触を減らすようにする。
		○あたらしい1年生を しょうたいしよう (p.120-121) ・入学する前の自分たちの様子を振り返り、新しく入学してくる1年生のために今の自分たちにできることを考え、実際に園児を招いて学校生活を紹介したり、一緒に楽しく活動したりして、関わり合うことを楽しむと同時に、自分たちの成長を感じることができる。	2			・状況を見て実施の可否を決める。 ・実施する場合は、少人数で距離をとる活動計画を行う。
		○もうすぐ2年生だね (p.122-123) ・2年生になったらやってみたいこと、挑戦してみたいことなどを考え、話し合う活動を通して、進級への思いをふくらませたり、新しく入学してくる1年生のために自分たちにできることを考えたりして、意欲的に生活しようとするすることができる。	2	・家庭との連携をはかり、家の人と話し合っ、2年生になったらやってみたいことや意気込みなどを自覚する。	1	・話し合いの時は班机にせず体の向きだけをかけ、距離を保つ。 ・模造紙や付箋などを活用し、ここで確認できるよう設定する。

合計 80

14